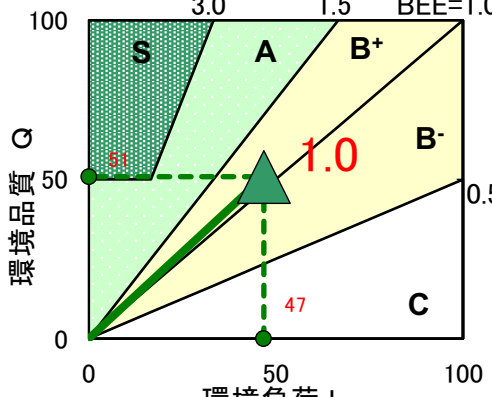
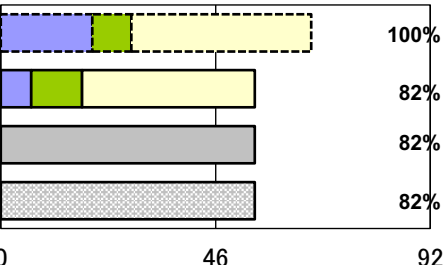
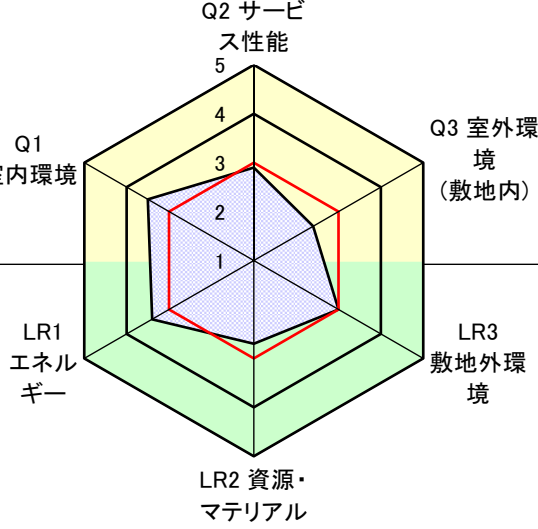


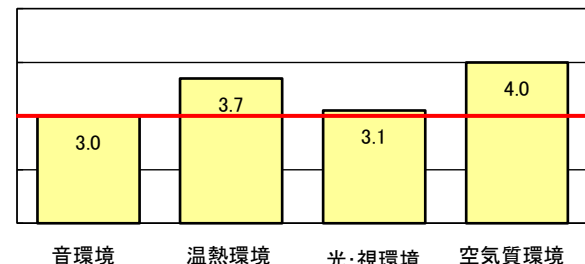
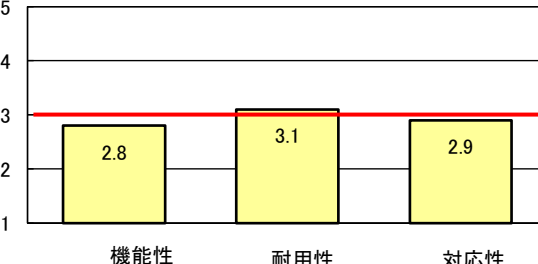
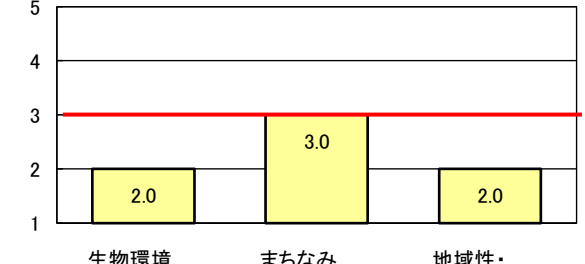
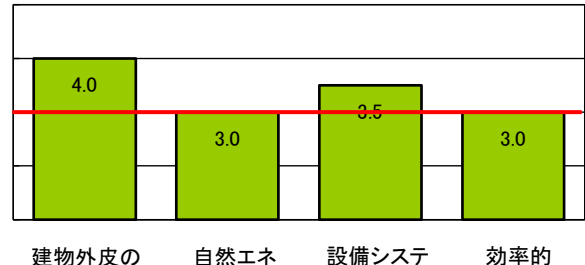
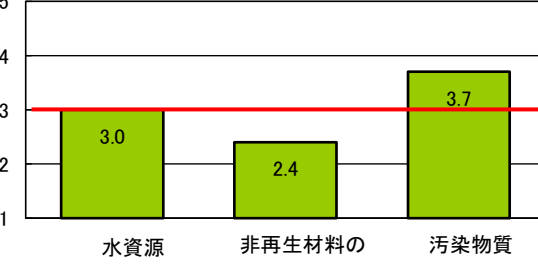
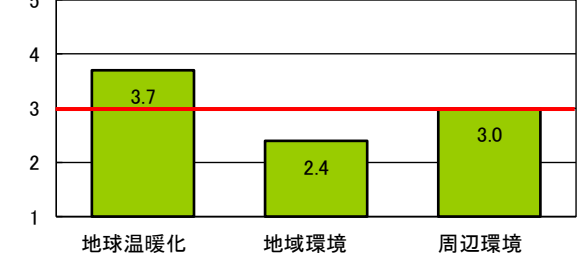


■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	(仮称)金山Ⅲ計画	階数	地上14F	
建設地	名古屋市中区正木三丁目305番2、306番、307番	構造	RC造	
用途地域	近隣商業地域、準防火地域、緑化地域、駐車場整備地区、都市機能誘導区域、居住誘導区域	平均居住人員	144 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	52,560 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2021年4月15日	
敷地面積	694 m ²	作成者		
建築面積	307 m ²	確認日	2021年4月15日	
延床面積	3,368 m ²	確認者		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.0 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C:★★  環境品質 G 環境負荷 L	標準計算 ☆:☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30%  ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	 Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q のスコア= 3.0		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア= 3.5	Q2のスコア= 2.9	Q3のスコア= 2.4
		
音環境	機能性	生物環境
温熱環境	耐用性	まちなみ
光・視環境	対応性	地域性・
空気質環境		
LR 環境負荷低減性		
LR のスコア= 3.1		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 3.4	LR2のスコア= 2.7	LR3のスコア=3.0
		
建物外皮の	水資源	地球温暖化
自然エネ	非再生材料の	地域環境
設備システ	汚染物質	周辺環境
効率的		

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
周辺環境に調和するように計画し、建物の快適性、安全性などの品質や性能を高めることで長期間利用されるよう配慮した。また、社会の良質なストックとなるよう建物の熱負荷を抑制し、ライフサイクルを通じた環境負荷低減を目指した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
遮音対策による良好な音環境の形成や外壁・屋根・窓などの断熱性の向上、庇等による日射熱負荷の低減により建物の快適性を高めた。また、全面的にF☆☆☆☆の内装仕上材を用い、シックハウス対策を講じた。	可能な限り居室天井高を2.5mとし、ゆとりある住空間の確保に努めた。 また、躯体耐用年数は劣化対策等級3相当とし、建物の信頼性についても考慮	中高木の樹木を建築物の周囲に配し、計画敷地周辺の街並みに配慮するとともに、大気汚染物質・騒音などの緩衝帯になるよう計画した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
省エネルギー対策等級4相当の断熱性能や、潜熱回収型給湯器の利用により建物の熱負荷抑制に配慮した。	グリーン購入法における「公共工事特定調達品目」の断熱材(ノンフロン材)を天井・外壁等に採用することで、地球温暖化抑制に配慮した。	敷地内に十分な駐車・駐輪台数を確保して周辺道路に路上駐車することのないよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称) 金山皿計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。